

三体千字文を書く(18)

締切り 六月二十四日(必着)



奥村憲照先生書

□作品の出し方

- ▼硬筆部 B5判(二五七mm×一八二mm)以下の紙に書いて下さい。用具は自由です。(黒色に限る)
- ▼毛筆部 B5判に書いて下さい。(筆ペン可)
- ▼出品制限の対象とはしませんが、出品は硬毛のどちらか一方に限ります。
- ▼事務処理上、支部略称・氏名・会員番号・硬筆規定の成績(毛筆の場合は毛筆漢字の成績)を、作品余白にお書き下さい。
- ▼優秀作品は、写真版として成績表の後ろに掲載しますが、成績表での順位発表はしません。

◆硬筆の専門誌だった大書心に一般毛筆部が設立されたのは、昭和五十六(一九八一)年四月のことです。

◆「三体千字文」の一課題からスタートしましたが、憲照先生の穩健中正で気品のある毛筆手本が好評を博し、「硬毛一致」の新しいスローガンを打ち立てて毛筆部の充実を図り、本会の発展へとつながりました。

◆原点に戻って、基本用筆と正しい崩し方をしっかり学びましょう。

〔千字文〕

四言古詩二五〇句、重複しない千字からなっており、聖徳・修養・修身・齊家等について述べられた習字手本であり、初学者の教科書でもあった。

梁の武帝(在位五〇二〜五四九)の命を受け、周興嗣が王羲之の筆跡中からまとめたといわれる。

〔解説〕

海鹹河淡  
鱗潜羽翔

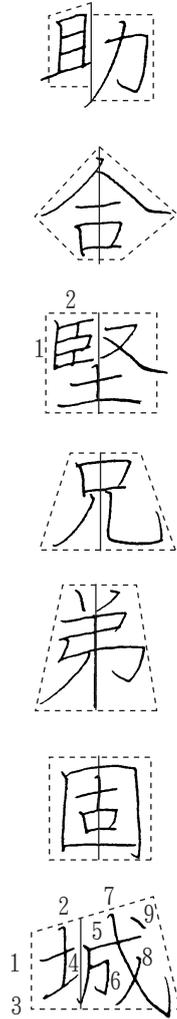
海の水は塩からく、河の水は淡白である。

魚は水にひそみかくれ、鳥は天を翔ける。

準初段から六段まで

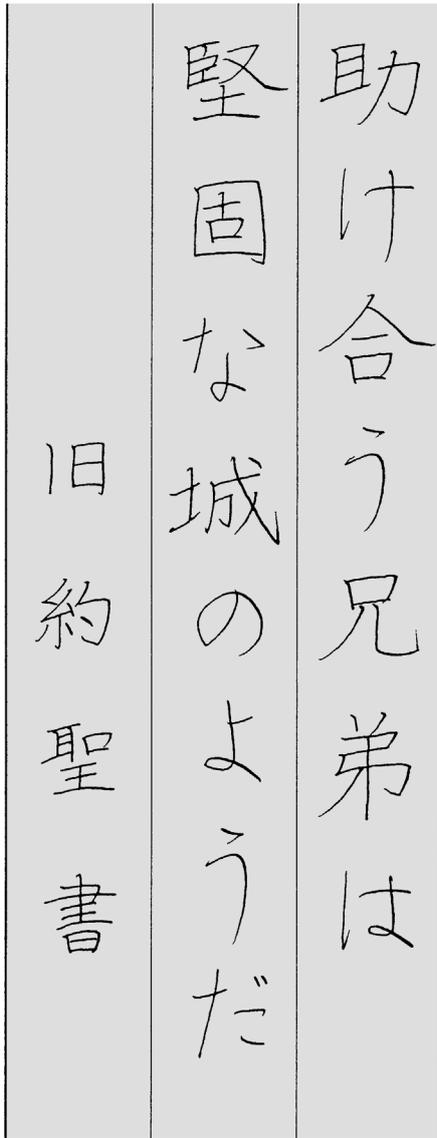
新入から1級まで

〔解説〕



◎日頃審査で気づくことは、楷書の基本線が甘いこと。特に横線の太細の変化及び右波法等。最初から成果を望むことなく、少しずつ持続性と着実性を求め練習に精進されたい。

▶教範・書範は右課題を「行草または草書」で、師範は「行書」で出書して下さい。

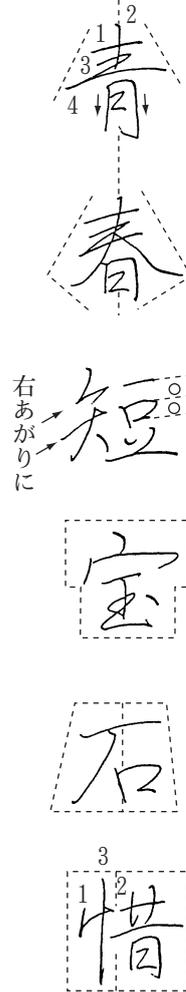


おか だ りゅう ほう 書  
岡 田 龍 芳 書

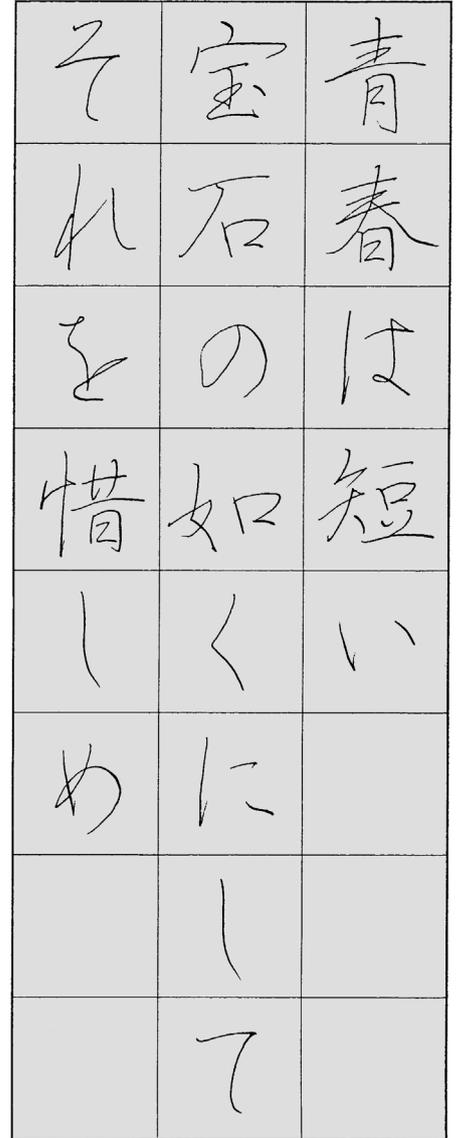
▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会段位用紙

〔解説〕



右あがりに



おお たに せい じょう 書  
大 谷 清 城 書

▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会級位用紙

▼教範・書範⇨楷書  
▼師範⇨行草または草書

◆7月課題予告(行書)  
誠意や真心から出た  
言葉や行為はそれ自体  
尊く相手の心を打つ

★助け合う…(書体⇨楷書)  
「旧約聖書」より  
兄弟だからこそ反発するということも  
ありますが、助け合うときは、血の  
つながり故に計り知れない絆の強さを  
発揮することができます。それは、  
どれだけ大軍で襲っても決して倒れな  
いお城のようなものです。

◆7月課題予告(楷書)  
迅速に決断し  
行動できるよう  
自己訓練する

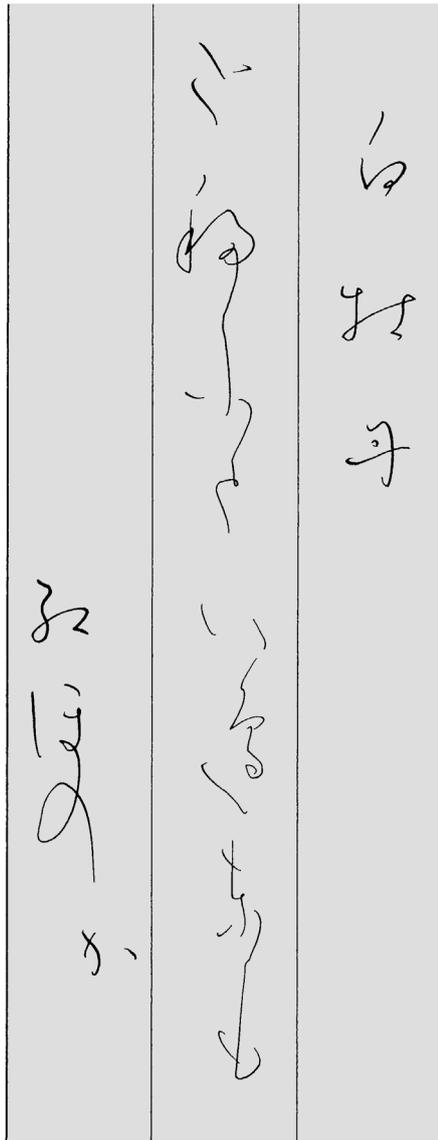
★青春は…(書体⇨行書)  
倉田百三(一八九一〜一九五三)  
大正・昭和期の劇作家・評論家  
青春時代は身心ともにエネルギーに  
満ち、あらゆることに挑戦できる輝か  
しい時期です。しかし、あっとい間  
に過ぎ去ってしまいます。自分の可能  
性を最大限にひき出せるよう、貴重な  
宝石を扱うように大事に大事に過ごし  
ていきたいものです。

# 一般部かな課題

締切り 6月24日(必着)

準初段から六段まで

新入から1級まで

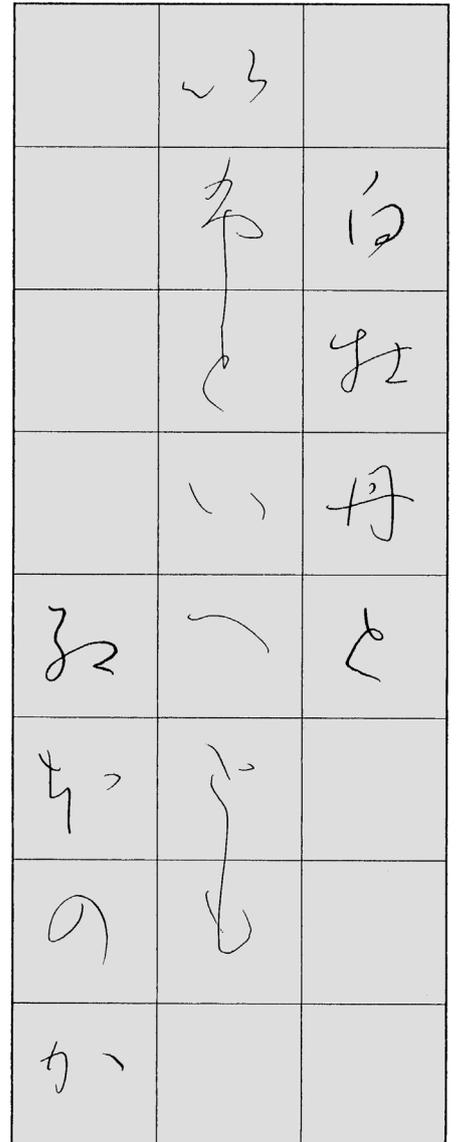


白牡丹といふといへども紅ほのか

おお みや しゅん ちやう  
大 宮 春 兆 書

▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会段位用紙



白牡丹といふといへども紅ほのか

■両課題とも、文字の変換・配字は自由です。

おお みや しゅん ちやう  
大 宮 春 兆 書

▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会級位用紙

## ◆7月課題予告

ひっぱれる糸まつすぐや甲虫

(高野素十)

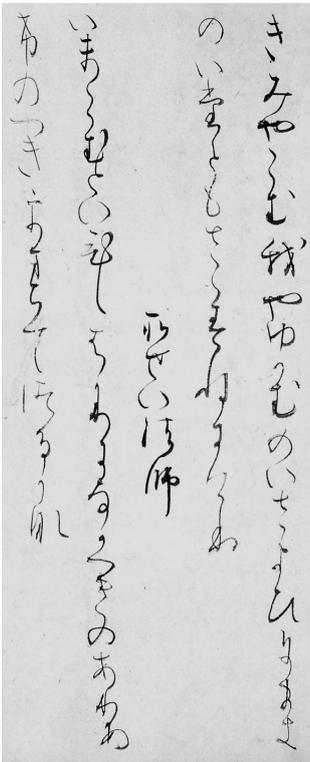
本ほ 東と 邊へ 布ふ 移い 以い  
糸 糸 糸 糸 糸 糸  
糸 糸 糸 糸 糸 糸  
糸 糸 糸 糸 糸 糸  
糸 糸 糸 糸 糸 糸

〔古筆参考〕

白牡丹といふといへども紅ほのか  
〔句意〕清艶な白牡丹が咲き誇っている。人は白牡丹と呼んでいるが、よくよく眺めてみると、ほのかな薄紅の色がさしていることである。  
(高浜虚子)

〔古筆参考〕

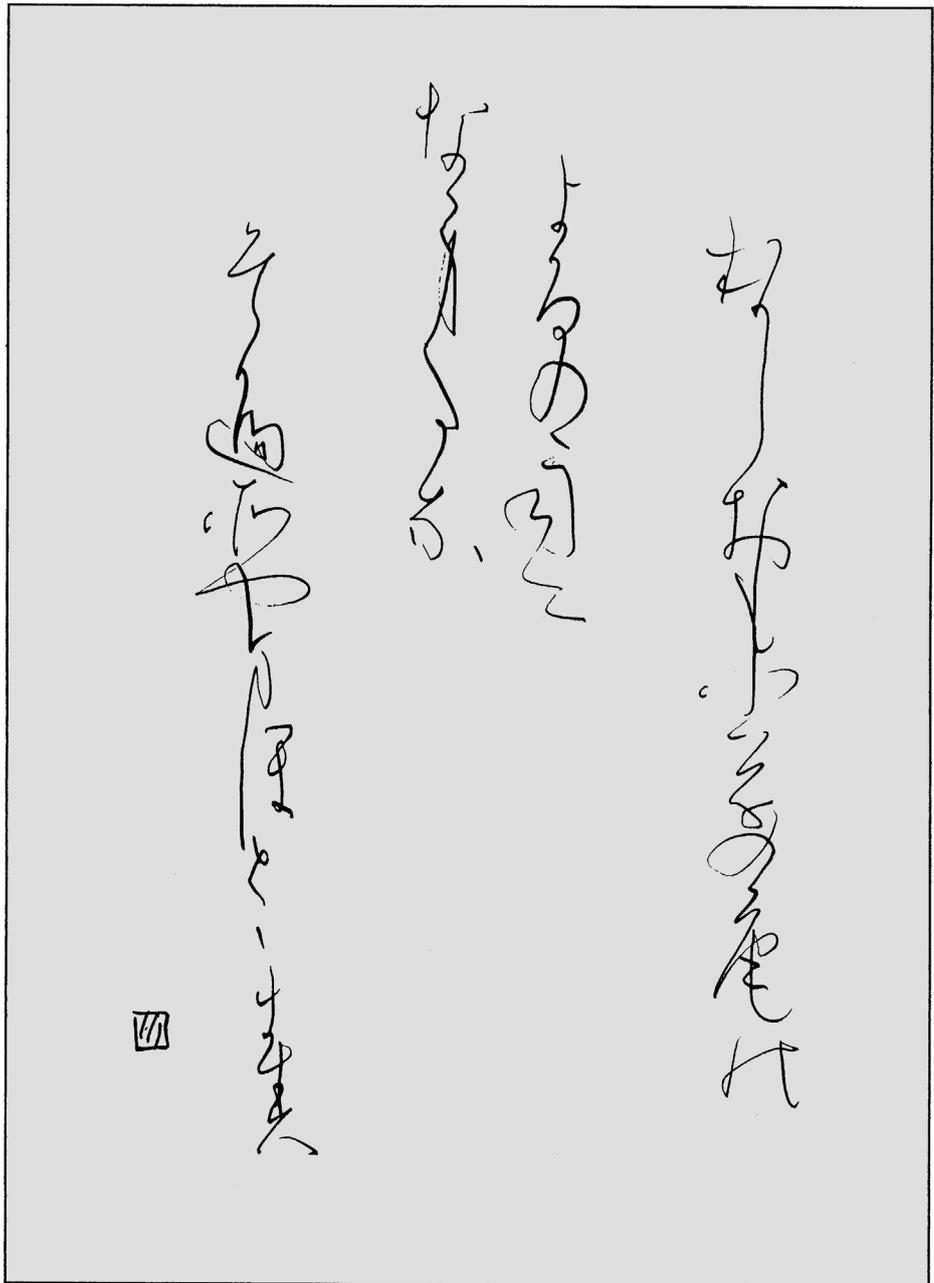
せきどほんこきんしゅう  
関戸本古今集



きみやこむ我やゆかむのいざよひにまき  
のいたどもさくすねにけり  
そせい法師  
いまこむといひしばかりにながつきのありあ  
けのつきをまちでつるかな

締切り 六月二十四日(必着)

築瀬舟香書

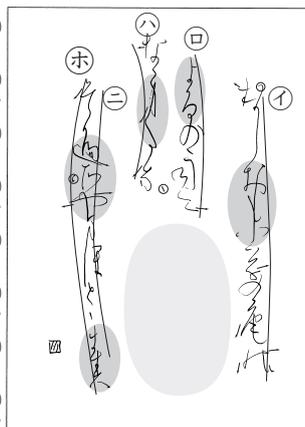


皇太后宮大夫俊成  
むしおも  
昔思ふ草の庵のよるの雨に  
涙な添へそやまほととぎす

〔歌意〕夜、雨の降りそぐ草の庵の  
中で、昔のことをなつかしく思い出し  
て、わたしは涙にくれている。山ほと  
とぎすよ、悲しい声で鳴いて、その上  
さらに涙の雨を添えてくれるな。

〔解説〕

(新潮日本古典集成)



- ①と②、①と③、②と④、③と⑤、④と⑥、それぞれ呼応。
- 行の密とそれの動き。
- 余白大切。
- ◁ 指向性。
- 点の場所、大切。

指向性

指向性とは線の方向を示す言葉です。  
面の中に同型の文字が真っ直ぐに積ま  
れていくと美しさが損なわれます。文  
字の型、大小、線の方向等を考えて行  
を作り行を揺らす時に指向性が大切な  
のです。

◆7月課題予告

帰りこぬ昔を今と思ひ寝の  
夢の枕にほふたちばな

締切り 6月24日(必着)

いよいよ蒸し暑くなってきました。室内も涼やかに過ごせるように、麻やい草の夏座ぶとんに更衣ころもがえしました。竹で編んだ花器に紫陽花を一輪生けて雨の風情を楽しみつ、静かに梅雨明けを待っています。

いよいよ蒸し暑くなってきました。室内も涼やかに過ごせるように、麻やい草の夏座ぶとんに更衣しました。竹で編んだ花器に紫陽花を一輪生けて雨の風情を楽しみつ、静かに梅雨明けを待っています。

◎手本は水性ボールペン使用

作品の出し方

- 新人から師範まで、どなたでも出書できます。成績は評価により毎月変わります。
- 用紙Ⅱはがき課題ははがき用紙、横書き課題は一般部段位用紙を横に使用。
- 用具Ⅱはがき、横書き課題ともに自由。(黒色に限る)
- 両課題とも、書体変換は自由です。

横書き課題

自由の女神像は、アメリカ合衆国が理想とする自由の象徴である。

愛知県名古屋市 氏 名

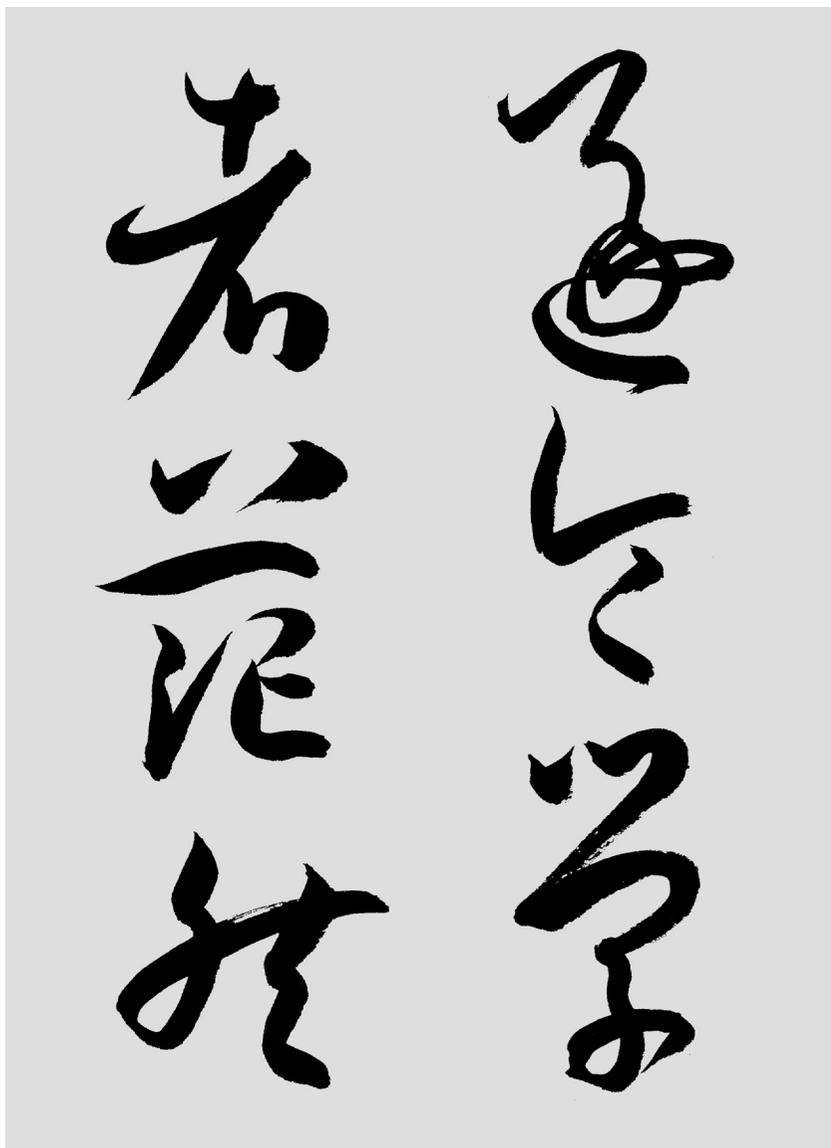
※手本は、つけペン使用。 ★三行目は、指定の地名と氏名を書いて下さい。

一般部毛筆漢字課題

締切り 6月24日 (必着)

遂  
令  
學  
者  
茫  
然

遂令學者茫然

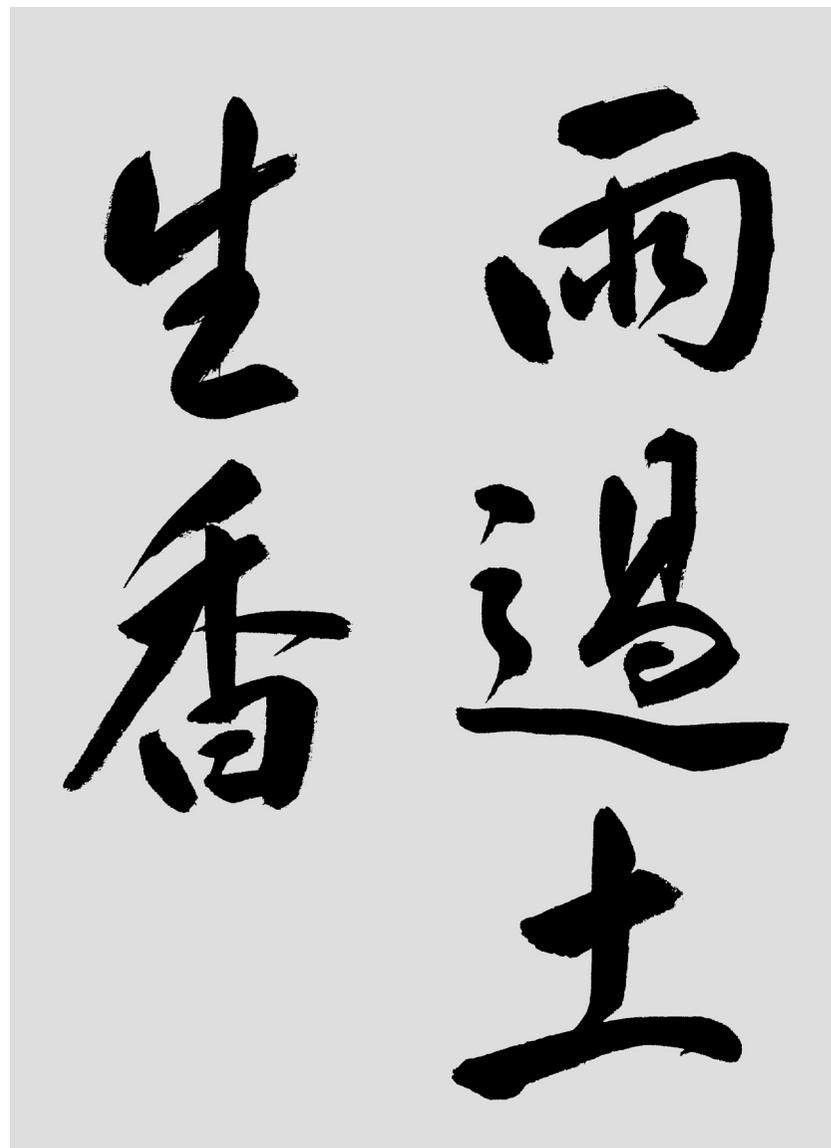


〔出典〕書譜(687)〔筆者〕孫過庭(648?~703?)

〔読み〕遂に學者をして茫然として

準初段から師範まで

奥村暢之臨



〔読み〕雨過ぎて土香りを生ず

〔大意〕雨が降った後、土がよく香ってきた。

新入から1級まで (行書)

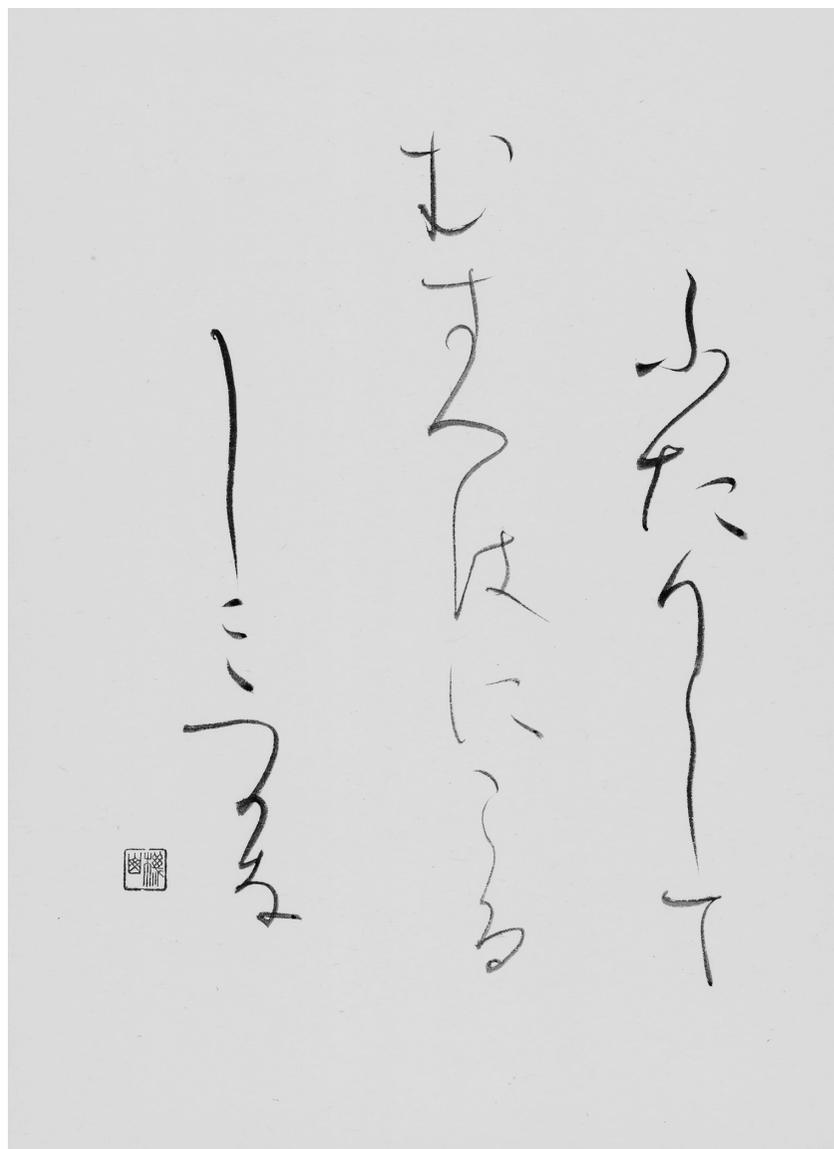
荻田蒼仙書

# 一般部毛筆かな課題

締切り 6月24日 (必着)

新入から1級まで

浅井機山先生書

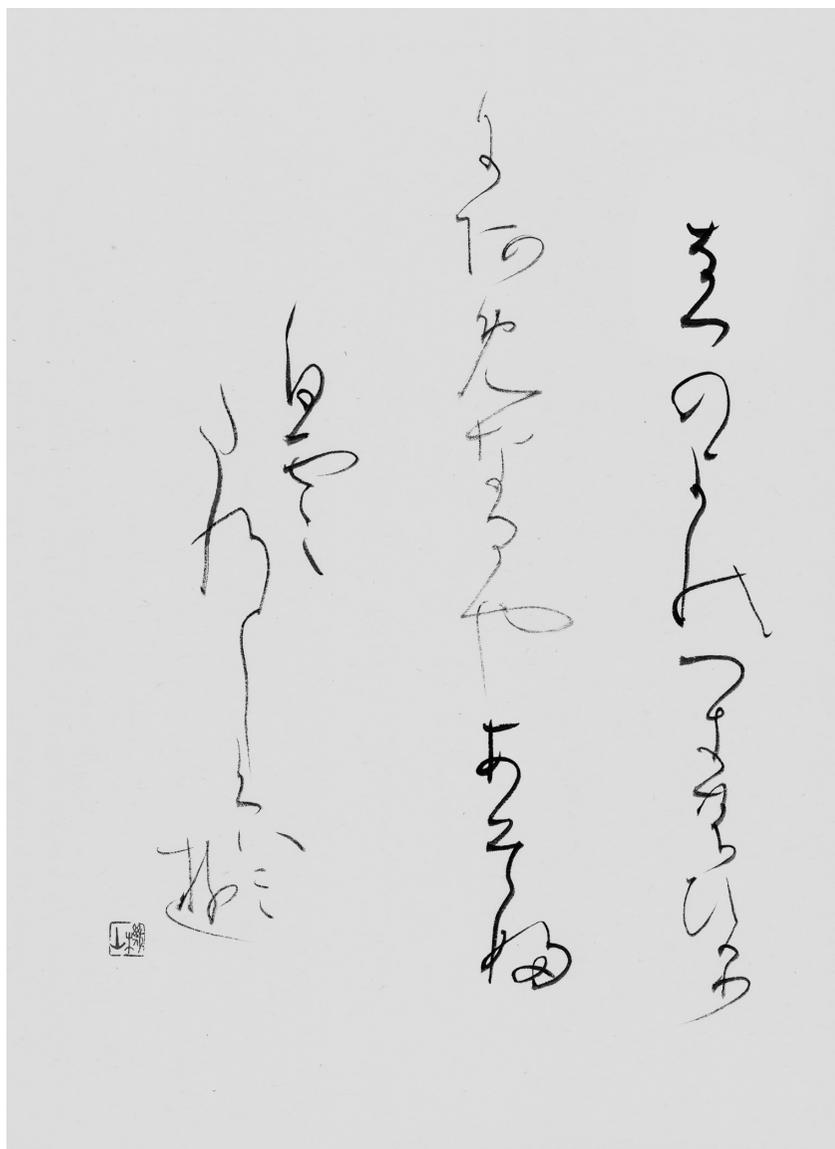


※検定試験1級コースを兼ねる。

準初段から師範まで

二人してむすぶ濁る清水哉

■両課題とも文字の変換、ちらし方は自由です。



※検定試験三段コース以上を兼ねる。

夏の夜の月の光に天なるや  
遊ぶ白雲のしくは見ゆ

〔出典〕 窪田空穂

〔歌意〕 夏の夜の月の光に、天上界では、遊ぶように浮かぶ白雲の楽しげに見えることだ。

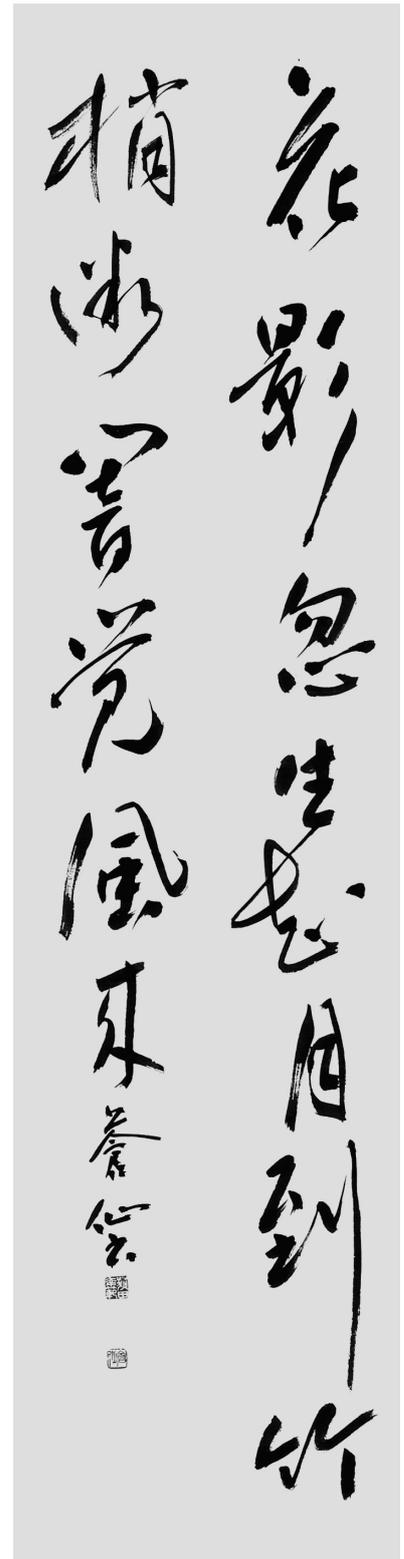
〔出典〕 与謝蕪村

〔句意〕 むすぶは水をすくうこと。冷たい清水を待ちきれず二人してすくってのむと、浅いためすぐ濁ってしまうというのである。山間の一時の涼である。

一般部毛筆細字課題

一般部毛筆条幅課題

締切り 六月二十四日(必着) 半切(一三六cm×三五cm)

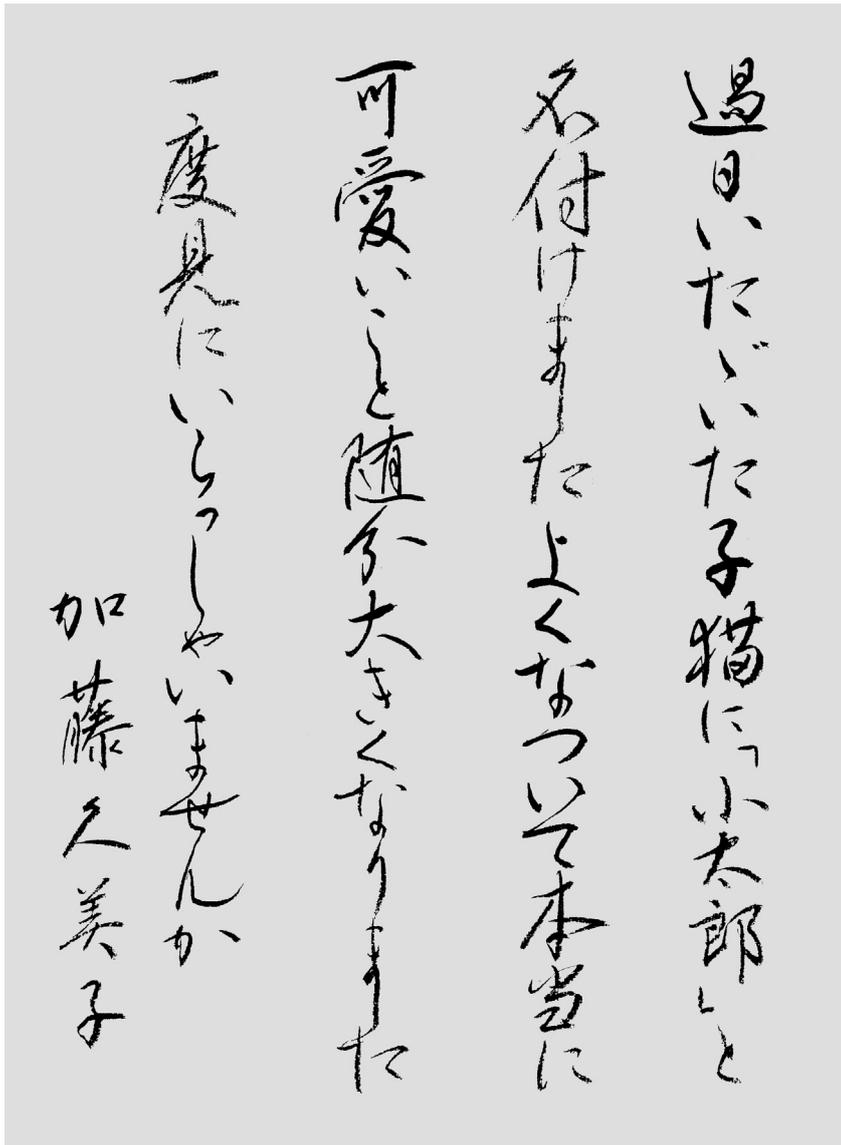


荻田蒼仙書

花影忽生知月到来  
竹梢微響  
〔大意〕花の影がうつつたから月の出たのが知らされた。竹の枝がさらさらと音がするから風の来たのが知らされた。  
初出品の方へ  
支部名・会員番号・  
姓名・毛筆漢字成績  
を、作品左下に必ず  
お書き下さい。

〔条幅解説〕

スナナリ露鋒を使い過ぎると作品全体が稚拙になりがちです。一口に言えば藏鋒です。入る角度、穂先の使い方等は文章ではむずかしいので、研修会、地区講習会で書きぶりを見て学んで下さい。



書 華 玲 田 樋

半紙 (334mm×240mm)

(ご自分の氏名)

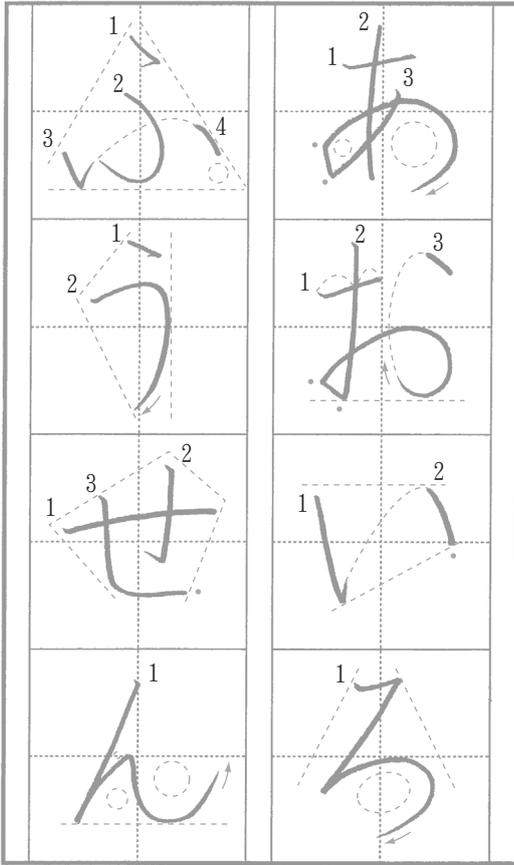
・印で墨つきしました。

〔条幅・細字作品の出し方〕

- 新人から師範まで、どなたでも出書できます。
- 成績(天位5等)は、評価により毎月変わります。
- 書体変換、変体仮名の交換は自由です。

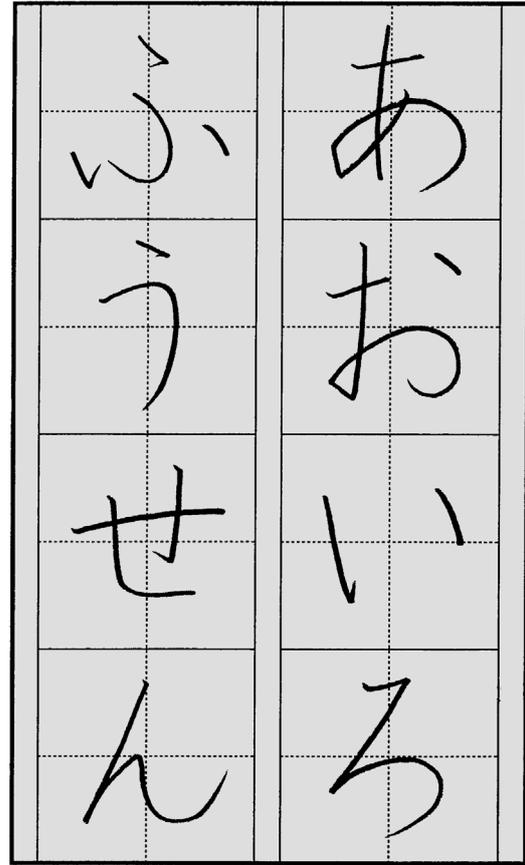
※検定試験三段コースを兼ねる。

〈ようぐく自由〉(黒色にかざる)



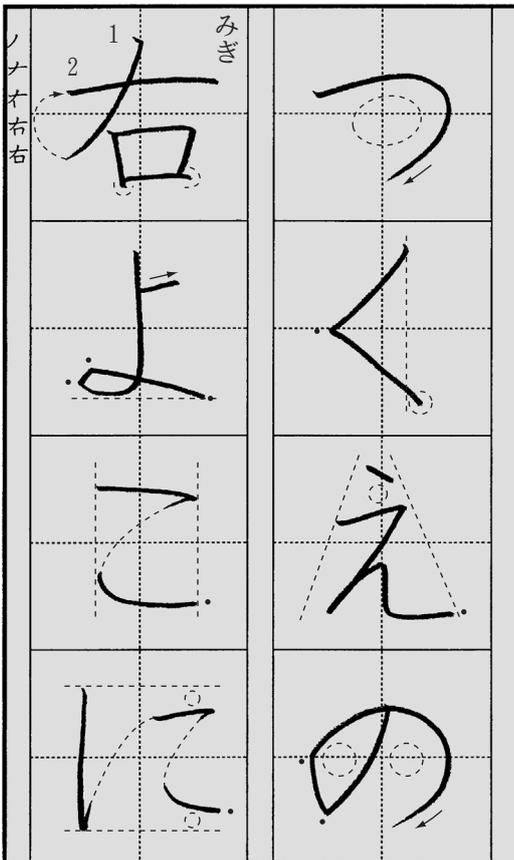
◆ひらがなトレーニング(なぞってかいてみよう)

★新入は、年少・年中・年長の別を記入して下さい。  
★幼年は、全員8マス用紙で出書して下さい。



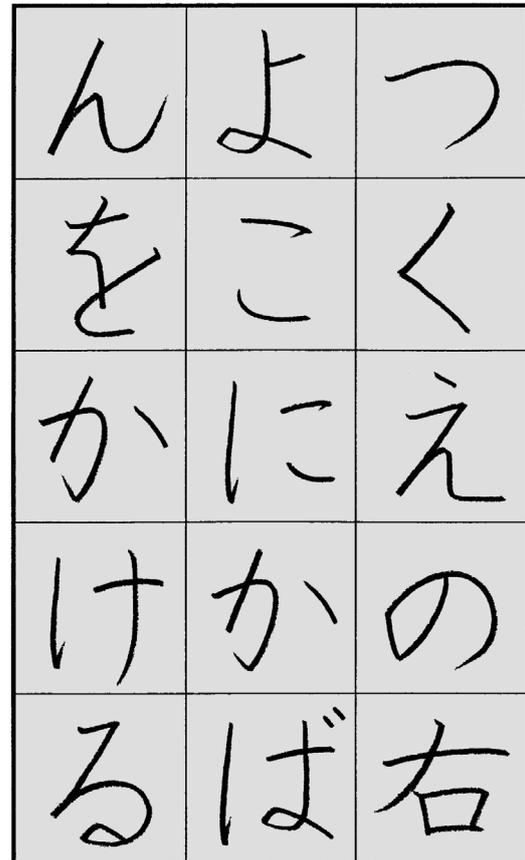
よ  
う  
年

幼年〜小三年  
三宅容玉書



新入〜1級

(注) えんぴつ書きでは、消しゴムを使ってはいけません。



小  
一  
年

準初段以上

〈ようぐく〉自由(黒色にかざる)

え	一十	十	ジツ
ん	一十才木本	本	ボン
び		の	
つ	ノクム各各色	色	いろ

新入1級

で	色	十
か	え	本
い	ん	入
た	び	り
絵	つ	の

小 二 年

準初段以上

外	そと	自	ジ
へ	ノクタ外外	転	テン
出	で	車	シャ
る	一十中出出	で	

新入1級

へ	自	晴
出	転	れ
か	車	た
け	で	日
る	外	は

小 三 年

準初段以上

(注) えんぴつ書きでは、消しゴムを使ってはいけません。

小 四 年

1月1日	モク 目	にが 苦
2月1日	テ 手	て 手
3月1日	ヨ 予	な な
4月1日	シユウ 習	カ 課

(全員)

新四年生は、左記により、全員この手本どおり8マス用紙で出書してください。

記

- \* 用具は自由ですがデスクペン、つけペンで書く人は、硬くならず、のびやかに書く習慣をつけることが第一目的です。
- \* 六月締切り分までは、この方法を続けます。
- \* ペン書きの人は早く慣れるよう、たくさん練習をしましょう。
- \* 七月締切り分からは、準初段以上は従来どおり15マス用紙を使用してください。

〈用具〉自由(黒色に限る)

小 五 年

実	い	容
現	が	易
目	理	で
指	想	は
す	の	な

(全員)

小五以上は、全員15マス用紙で出書して下さい。

解説(よく見て習いましょう)

実	容
現	易
目	理
指	想

小四以上 須田 一葉 書

小六年

守	と	幼
番	二	ち
を	人	園
す	で	の
る	留	弟

(全員)

※一人一単語としてこのように読みます。

解説(よく見て習いましょう)

ノ人	たり	ヨウ
幼	幼	幼
留	留	園
留	留	園
守	守	弟
守	守	弟
番	番	二
番	番	二

自由(黒色に限る)

中一年 (楷書)

る	梅	南
日	雨	か
本	入	ら
列	り	順
島	す	に

※梅雨一単語としてこのように読みます。

中二・三年 (楷書)

芸	間	美
作	国	術
品	宝	館
見	の	で
た	陶	人

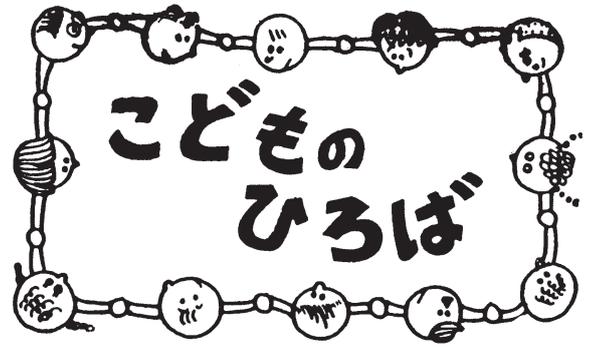
◎お手本は、つけペンで書きました。

▼小三年以下の課題 あん 安 どう 藤 しゅん 春 すい 翠 書

出 <sup>で</sup>	写 <sup>しゃ</sup>	父 <sup>とう</sup>	カ	休 <sup>やす</sup>			
か	真 <sup>しん</sup>	さ	メ	み			
け	を	ん	ラ	の			
ま	と	と	を	日 <sup>ひ</sup>			
す	り		持 <sup>も</sup>	は			
	に		っ				
			て				



◎お手本はえんぴつ使用



しめきり 6月24日(必着)

習っていない漢字は、  
ひらがなで書いてもよろしい。

▼小四年以上の課題 さわ 澤 だ 田 てん 天 ゆう 由 書

見 <sup>けん</sup>	コ	飛 <sup>ひ</sup>	操 <sup>そう</sup>	世 <sup>せ</sup>			
学 <sup>がく</sup>	ツ	行 <sup>こう</sup>	縦 <sup>じゅう</sup>	界 <sup>かい</sup>			
さ	ク	機 <sup>き</sup>	士 <sup>し</sup>	を			
せ	ピ	の	の	巡 <sup>めぐ</sup>			
て	ツ		伯 <sup>お</sup>	る			
も	ト		父 <sup>じ</sup>				
ら	を		に				
う							



◎お手本はつけペン使用

◇作品の出し方

- 一、選定用紙(五行・四行)に書いて下さい。
- 一、作品には、支部名(校名)学年、氏名を書き入れて下さい。
- 一、筆記用具は自由です。(黒色に限る)
- 一、四行用紙を使用してもよろしい。その場合は、文章を適当に短くして下さい。
- 一、成績は評価により毎月変わります。
- 一、支部会員は、出品ラベルを必ず貼って下さい。貼っていない方は新入とみなします。



小二

十本

幼年く小二  
年

玉たま  
樹き  
小しょう  
華か  
書

せい

い

十 い

ながめに

本 よ

小一

よ



小三、小五年

水野香竹書

中三

人 国

間 宝

小六、中二・三年

奥村暢之書

留 番

小六

守

雨

留

間

番

宝

梅

中一

入 梅

り 雨

# 第64回 毛筆検定試験受験要項

6月24日締切り

## ■ 受験にあたってご注意

▼ 検定受験者は、六月のすべての毛筆月例競書をお休み下さい。(短期特別課題は出品可)

▼ 一覧表の最高昇段級位というのは、各コースで取得できる最高の段、級位を示したものです。現在この段級位にある人は、それ以上のコースを受験して下さい。

## ■ 出品方法

▼ 作品は、必ず一覧表に明示した順序にそろえ、右肩をホッチキスとして下さい。

ただし教範コースは、上から、①漢字②かな③細字

④教育部手本課題⑤条幅⑥書歴(初回のみ)。詳細は本部へ問合せ)の順にそろえ、ゼムクリップでとじて下さい。

▼ 検定作品と月例作品を同封する場合は、必ず、二つのビニール袋に分けて入れ、表に「検定」「月例」と明記して混同しないようにお願いします。

▼ 支局・支部には「検定作品出品明細書」を七月号配本時に同封しますから、所要事項記入の上、作品、受験料と同送して下さい。さらに、正確を期す上から受験者名簿を添付して下さい。

▼ 封筒に「検定受験」と朱書して下さい。

▼ 受験料は、為替か小為替で作品と同封するか、現金書留による送金に限ります。(振替、その他は不可)

● 締切 平成二十五年六月二十四日(本部必着)

● 送り先 大書心会検定試験係

● 発表 平成二十五年九月号

▼ 肉筆手本希望者は、毎月裏表紙掲載の毛筆担当の先生へ、現金書留(返信用封筒同封)でお申込み下さい。(左記料金は、一点についての金額です。ただし、コピー手本・添削料は半額といたします)

※条幅の原寸大のコピー手本はありません。

一般部1級・三段コース

漢字半紙……一、〇〇〇円  
細字・かな……一、五〇〇円

漢字半紙……一、二〇〇円

条幅……三、五〇〇円

細字……一、七〇〇円

教育部……八〇〇円

活字課題 五段コース以上  
会友コース

## ◆ 一般部1級・三段コース

コース	課題	最高昇段級位	課題	漢字		かな	細字	計	受験料
				楷書	行書				
一般部	1級コース	1級まで	漢字は下掲課題 かなは月例級位課題	1	1	1		3	1,500
	三段コース	三段まで	漢字は下掲、かな・ 細字は月例級位課題	1	1	1	1	4	2,000

[三段コース漢字課題]

《集字聖教序》

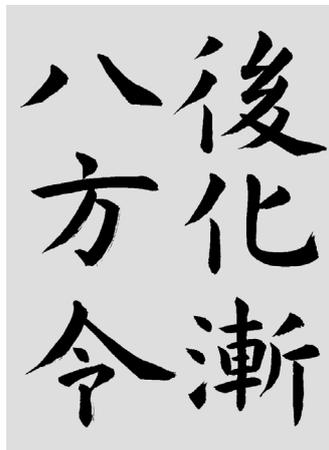
《孔子廟堂碑》

《行書》

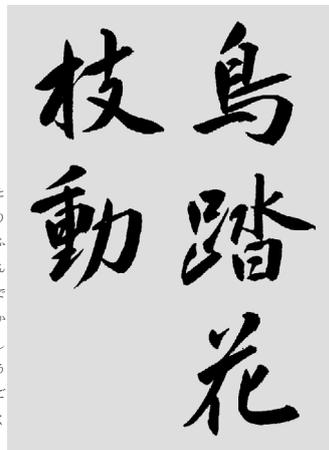
《楷書》



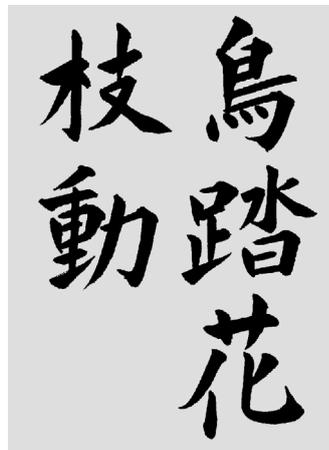
神谷葵水先生書



鳥踏花枝動



荻田蒼仙書



コース	課題	受験資格	最高昇級位	課題	漢字			かな	細字	条幅	教育部 手本	計	受験料
					楷書	行書	草書						
一般部	五段コース	有段者 支局・支部長	五段まで	下記(活字)	1	1	1	1	1	—	—	5	2,500
	書範コース	有段者 支局・支部長	書範まで	下記(活字)	1	1	1	1	1	1	—	6	3,000
	教範コース	書範 支局・支部長	教範	下記(活字)	1	1	1	1	1	1	2	8	4,000
教育部	普通コース	—	6月しめきりの月例競書課題									1	400
	会友コース	四段以上の中学生 準会友の小学生	6月しめきりの月例競書課題と下記活字課題(行書)									2	700

◎師範試験は、毎年2月に単独で実施しています。

▼書譜

鐘當抗行或謂

▼集字聖教序

窺天鑑地庸愚

▼孔子廟堂碑

春而流惠澤然

漢字

五段コース以上共通(半紙)

図版で示した三つの法帖の各六文字を、それぞれ半紙に臨書して下さい。

五段・書範・教範コース課題

一、五段・書範・教範コース受験は、上掲一覧表のと  
おりの受験有資格者に限ります。  
一、教範コースは単位合格が認められますが、単位を  
取得されても、受験の際は改めて全科目を提出し  
て下さい。ただし、合格科目については、審査の  
対象から除きます。  
一、単位合格は、二年以上検定試験を受験しないと無  
効になります。

発表

(行書)

▼六月締切りの自分の学年の月例課題一枚  
▼上の語句の行書一枚  
計二枚を一組とし、右肩をとじて出品のこと。

小1

たび

小6

文化統

※氏名は、各学年に合わせてお書き下さい。  
(小1年はひらがなで書くなど)

教育部手本課題

教範コースのみ(半紙)

還暦おめでとうございます  
明るく潑刺と仕事するお母さんに  
いつも励まされ私達は幸せです  
ずっと元気で輝き続けて下さい

細字

五段コース以上共通(半紙)

次の語句を、行書または行草体で体裁よく書いてください。

かな

三段コース以上共通(半紙)

次の和歌を、かな半紙にちらし書きにして下さい。  
◎夏の夜の月の光に天なるや  
遊ぶ白雲たのしくは見ゆ(窪田空穂)  
※6頁参照

条幅

書範・教範コース共通(画仙紙半切)

次の語句を、画仙紙半切に体裁よく書いて下さい。